

【注意】 答えはすべて、解答用紙の定められたところに記入しなさい。  
本文は、問題作成上、表記を変えたり省略したりしたところがあります。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

街に住んでいた頃、郊外こうがいの畑を借りたぼくは早速さつそく新しい鍬くわを買かい、硬かたくなった土つちの荒起あらかこしを張り切きってはじめた。そのぼくを見て、地主のおばちゃんおばちゃんが言った。

「何にも知らねえんだな。畑は前に進すすみながら、うなうんだよ」

後のちずさりしながら鍬くわを振ふっていたぼくは、今度は方向をぐるりと変えて、前進ぜんしんでやってみた。

いや、まったく楽やすだった。後退こうたいすると耕かした土つちを常に引きずるため鍬くわがずっしりと重おもくなるのだが、前進ぜんしんすれば土つちを起たすだけで無駄むだに引きずる必要ひつようがない。

農家のうかに育そだったおばちゃんにとって、そんなことは箸はしでごはんを食べるのと同じくらいあたりまえのことだったに違ちがいない。けれども街育まちそだちのぼくにとっては① 目めから鱗うろこの体験たいけん。なにこともコツを知るのは大事だいじだなあと考えたものだ。

とはいえ田舎いなかに移住いじゆうしたあと、近所のおばあちゃんおばあちゃんがふかく寝ねかせた柄えの付ついた平鍬ひらくわを使い、腰こしを曲まげて畑を耕かしているのを見たときは、いかにも大変たいへんそうな印象いんしょうを受けた。「② まねできないなあ」と思った。

そんなぼくに、「使い方を覚えれば、あの鍬くわが楽やすだし仕事しごとも早いんだ」と教えてくれたのは、同じ町内に住まむ寛かさんだ。寛かさんは二十数年前にじゅうすうねんぜん、自給じきつを基本きほんに据たえた暮くらしらしをめぐしてこの町に移うつり住すみ、鍬くわ一本いっぽんから田畑でんはちを耕かしはじめた大先輩おおせんぱいだ。その寛かさんが移住いじゆうした当時は、明治生まれのおじいさんがまだ現役げんえきで田畑でんはちに出でていた。鍬くわの使い方はそのおじいさんから教おしわったのだそうだ。

「おじいさんが第一線だいいせんで田畑でんはちをつくった時代じだいには、基本的に鍬くわで耕かしていたんですね。それこそ腕うでの延長えんじやうのように鍬くわを使いこなしていましたよ。そういう人をさしおいてぼくが教おしえるなんて、本当ほんとうは恥はずかしいんです」

そう前置ちんちきする寛かさんだが、プロの農家のうかならトラクターや管理機かんりきを使ういま、数百年すうひゃくねんにわたって蓄積ちくせきされた田畑でんはちの人力じんりき技わざを継承けいしょうする人を探たづねるのは、かえって難がたしくなっている。

だが、ぼくのように自給用じきつようの小さな菜園さいえんを耕かす場合ばいあひ、耕かうん機きを出すほどではないが、人力じんりきでは気合きあいの必要な面積めんせきである場面ばめんが少なくない。これまでぼくは我流がりゅうながら少しでも楽やすをしようと、あれこれ道具どうぐを買かい揃そろえ、一式いっしき抱かかえて畑はちに出でていた。それが寛かさんに鍬くわづかいを教おしわってからのというもの、 平鍬ひらくわ一本いっぽん担かかぐだけで済すんでいる。 これまでの我流がりゅうに比べて圧倒あつぱん的に早く楽やす、 きれいに仕事しごとができるのだ。

「若い人わかいひとがはじめて鍬くわを使うと、力ちからづくでやるから長続ながつづきしないし、柄えを折よっちゃったりするんだね。重要なのは腕力わんりきを使つかわないこと。力ちからじゃなくてコツなんだよ」と寛かさんはいう。固かたい土地ちかの開墾かいこんには、 体力たいりきも必要ひつようだ。

が、手入れの行き届いきといた畑はちに平鍬ひらくわで畝うねをたてるくらいの仕事しごとは、 九十歳きゅうじゅうさいを過ぎた農家のうかの古老こらうがこなしている。③ 力ちからづくでは絶対ぜったいに無理無理だろう。

寛かさんの鍬くわづかいを注意ちゅういぶかく観察くわんさつすると、鍬くわを振り下くだろすときは右手みぎてにほとんど力ちからが入いっていないようだった。刃やいばの重おもさを使って振ふっているのだ。右バツターみぎバツターは左手ひだりてでバツトを振ふると聞いたことがあるけれど、基本きほんはその動きうごきと同じなのだ。ただしインパクトいんぱくトの瞬間しゆんかん、つまり刃やいばが土つちに刺ささる一瞬いっしゆんは、鍬くわがぐらつかないようにグツと押おさえている。

たとえばウエイトトレーニングでは、二十年ほど前から初動負荷理論しゅどうふかりりろんという体系たいけいが効果を上げている。ボールを投なげるとき、上手うまに腕うでを振ふり抜ぬくには、動作どうさくの後半こうはんに腕うでの力ちからが抜ぬけていなければならない。力ちからを入れるのは弾はみをつける最初しゅじうだ。その後は手先ての先や足先あしの先など身体からだの末端部まつたんぶの力ちからが抜ぬけていないと、かえってスピードが落ちてしまう。筋力アップは動きうごきにきっかけを与あたえる体幹部たいかんぶに近い部位ちかひほど大切たいせつだと言いわれはじめ、ゴムチューブを引くトレーニングは動作どうさくの後半こうはんに負荷ふかが増あすため逆効果さかこうだと分わかってきた。

「力を抜けば抜くほど力ちからが出る」と三十年前に記ししたのは野口体操のぐちみちそうの故ゆ・野口三千三のぐちみちさうさんだ。スポーツよりもむしろ舞踏ぶたうや演劇えんげきなど身体表現しんたいひょうげんの分野ぶんぎやうで注目ちゆもくを集めた野口体操のぐちみちそうは、④ ムダのない身体しんたいの動きうごきのイメージを分かりやすい言葉ことばで表現ひょうげんした。

野口体操のキーポイントのひとつに「重さ」がある。動きには筋力よりも重さが作用する場面が多い。たとえば柄の先におもりの付いたハンマーを使うとき、動きははじめに筋力を加えれば、あとは重さの作用で強力な破壊力を生む。

鍬を打ち込むにはハンマーの作用を利用する。寛さんの動きをさらによく見ると、鍬を引き上げるときは軽い力で済むように、柄を握る右手が鍬の頭近くをグリップしている。一方、土に打ち込むときは右手のグリップが左手と同じ柄の尻に移る。肩から先すべてが鍬の柄になったかのように扱って、鍬の頭の重さを生かしていたのだ。

「鍬は五年くらい使っていたらフツと楽になるときがあったんです。それからは⑤機械です仕事がいぶん雑に見えるようになったね」と寛さんはいう。道具を身体の一部とし、身体を道具の一部として使いこなす。精農は自然の内に隠された力を妨げることなく引き出すマジシャンなのだ。

コツを自分のものにするには熟練が必要である。これはスポーツでも同じこと。繰り返し練習していると、フツとできる「その瞬間」がくる。それは⑥一つの醍醐味でもある。

(新田 穂高『楽しいぞ！ ひと昔前の暮らしかた』より)

〈注〉 うなう……畑に畝(土を盛り上げた所)を作ること。

負荷 ……筋肉を鍛えるために与える余分な力。

体幹部……体の中心部分、ここでは胴体のこと。

精農 ……農業に精を出す人。

問一 — ①「目から鱗」とありますが、本来は「目から鱗が [ ] 」と言います。 [ ] に入る言葉

を次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 下がる    イ 生える    ウ はがれる    エ 落ちる    オ 飛び出る

問二 — ②「まねできないなあ」と思ったのはなぜですか。

問三 — 1 [ ] 5 [ ] に入る適当な言葉を次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし同じ言

葉は二度以上使ってはけません。

ア たしかに    イ なにしろ    ウ たいていは    エ それなりに    オ しかも

問四 — ③「力づくでは絶対に無理だろう」と思ったのはなぜですか。

問五 — ④「ムダのない身体の動き」の「ムダのない」とはどういうことですか。寛さんの鍬使いを例にして説明しなさい。

問六 — ⑤「機械です仕事がいぶん雑に見える」のはなぜだと考えられますか。

問七 — ⑥「一つの醍醐味」とありますが、ここではどういう意味ですか。次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 長い間作業を続けていくうちに、コツをつかんで楽にできるようになる面白さ。

イ 前進しながらうなうと、ずっしりと重い鍬が軽くなるおぼちゃんの知恵。

ウ 鍬を身体の一部とし、身体を鍬の一部として自在に使いこなせる上手さ。

エ 重さの作用を利用することで、機械よりきれいに作業できるようになる才能。

オ 平鍬一本だけでマジシャンのように何でもできるようになる不思議さ。

二 次の文章は、テレビのチャンネルをめぐって争いを始めた兄弟の話です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

「ほんとに、手加減しないでやっていいの、お母さん？」

「いい」お母さんが①きっぱり言いました。

「よし、そんなら、おさむ、こい！」お兄ちゃんが立ち上がると、「おうー」と、おさむも身がまえしました。

「あ、ちょっと待って。ここせまいから、テーブル、あっちの部屋に片づけてからやろうよ。頭ぶつけて、けがしたら損でしょ」

そこで、三人でテーブルとか、居間にあるものを全部となりの部屋へどかしました。八畳の居間が、ぐーんと広くなりました。

「よし、これでいい。さあ、始めていいわよ」お母さんの声が終わるか終わらないうちに、おさむはダツとかけだし、頭からお兄ちゃんのおなかめがけてつっこんで行きました。不意を食らって、お兄ちゃんの足がもつれ、二人の体が重なったまま、ふすまに倒れこみました。

「あっ、あっ！」お母さんは目をつぶりました。バリッバリッと音がして、ふすまに大きな穴が開きました。お母さんは、思わずお尻を上げそうになりましたが、②うんと下っ腹に力を入れて座り直すと、だまって見続けました。

「このーっ！」上になったおさむを、お兄ちゃんは足でけとばしました。おさむはサッカーボールみたいにはねとばされましたが、すぐにはね起きると、また、つっこんでいきます。上になったり下になったり、組みついては離れ、けとばしたりなぐったり、二人は顔を真っ赤にして、ハーハー言いながらたたかっています。

「このーっ！」と、おさむが思いつきふりまわしたこぶしが、バシッとお兄ちゃんのほっぺに当たりました。

「うっ！ やったな、こいつ！」お兄ちゃんは足ばらいをかけました。ズテンと転んだおさむは、目の前のお兄ちゃんの足にかみつきました。

「いてて！」お兄ちゃんは、かみついているおさむの頭をボカスカなぐりつけます……。

お母さんは「思いきりやれ」とは言ったものの、はらはらしながら見ていました。無鉄砲なおさむの頭突きが、お兄ちゃんの鼻っ柱に当たって、ガキーンと音がした時には、お母さん③も顔をそむけてしまいました。

そうやって何分続いたでしょう。

そのうち、体力に勝るお兄ちゃんが、おさむの手足をおさえつけて、馬乗りになりました。身動きができず、どうしようもなくなったおさむは、精一杯わめきちらしていましたが、くやしきまぎれに、いきなり下からツバをとばしたのです。

ツバは、お兄ちゃんのおほにべチャツとかかりました。とたん、④お兄ちゃんの顔色が変わりました。

「やったな。もう、ゆるさない！」お兄ちゃんは右手を振り上げ、バシッ、バシッとおさむのおを四、五発、思いっきりたたきました。一瞬おいて、ウーンとおさむが大声を上げて泣きだしました。お兄ちゃんは、ほっぺのツバを手の甲でぬぐうと、おさむから降り、むっつりおしだまって二階へ上がっていききました。

お母さんは、おさむが泣き止むのをだまって見ていました。それから、①しゃくりあげているおさむを引き寄せると、汗で汚れた顔をふいてやりながらこう言いました。

「お兄ちゃんは優しいから、いつもは我慢してたのよ。本当は強いのがわかったでしょう」

おさむはうつむいたまま肩をふるわせています。お兄ちゃんに負けたのがくやくしてなりません。

⑤ だって、おさむのお兄ちゃんだもん。強いのがあたりまえじゃない」

「あたり……まえ……じゃない！」たたかれたほっぺが、②痛みます。

「兄弟でしょ、仲良くしなくちゃ」

「……やだ。兄ちゃんなんか、きらいだ！」おさむは③と泣き続けました。

「いつまで泣いてるの。おさむはそんな弱虫だったの」

「弱虫じゃないもん！」

「じゃ、めめそめるの、よしなさい！」お母さんはそう言って、さっさと行ってしまいました。

おさむは、それからしばらくうじうじしていましたが、一人になると、しだいに<sup>⑥</sup>張り合いがなくなってきました。すると、ひどくのどが乾いて仕方がありません。台所へ行くと、お母さんがお茶を飲んでいました。

「もう、気がすんだ？ たった二人っきりの兄弟なんでもん、仲良くしなくっちゃ。ね、そうでしょ？」

おさむはようやくくっくりにうなずきました。

「のどが乾いちゃった」

お母さんは笑って、「じゃあ、これでジュースでも買って、仲直りしてらっしゃい」

「ヤッター！」おさむはお金をにぎりめると、玄関の方へ走り出そうとして、二階を見上げました。それから、トントントンと二階にかけ上がっていきました。

まもなく、階段を降りてくる足音が聞こえました。

「おい、ほっぺ、痛くないか？」

「へいき、へいき、ぼくの頭突き、どうだった？」

「あれか、あれはきいた、きいた」

笑い声を残して玄関のドアが閉まった時、お母さんは急に胸が一杯になって、<sup>⑦</sup>おかしいのに涙がこみ上げてきたのでした。

(丘 修三「兄弟」より)

問一 — ①「きっぱり言いました」とありますが、「きっぱり」言ったのはなぜだと思いますか。

問二 — ②「うんと下っ腹に力を入れて座り直す」とありますが、その時のお母さんの気持ちを説明しなさい。

問三 — ③の「も」と同じ働きをするものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お母さんも私と同じ考えです。

イ 弘法も筆の誤り。

ウ 勘違いもはなはだしい。

エ 五時を過ぎたら帰ってもいいよ。

問四 — ④「お兄ちゃんの顔色が変わりました」とありますが、お兄ちゃんの気持ちはどのように変化しましたか。

問五 — ⑤「だって、おさむのお兄ちゃんだもん。強いのがあたりまえじゃない」と発言したお母さんの気持ちを

説明しなさい。

問六 — 1 3 に入る適当な言葉をア〜オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しんしん イ じんじん ウ ヒクヒク エ きりきり オ いじいじ

問七 — ⑥「張り合いがなくなってきました」とありますが、ここではどういうことですか。

問八 — ⑦「おかしいのに涙がこみ上げてきた」お母さんの気持ちをまとめなさい。

③ 次の文を、カタカナは漢字に直し、ていねいに大きく一行で書きなさい。

アサイ川もフカくわたれ。